

単元構想表 (ver.3.2)



2学年) 単元名: 「扇の的一『平家物語』から

指導者: 関市立緑ヶ丘中学校 教諭 辻 宏紀

All Clear

言語活動例			学年	領域	記号	「扇の的一」・「弓流し」を読み、人物の心情を理解し、当時の武士のものの見方や考え方をつかみ、現代と比較して理想のリーダー像についてまとめる活動			
指導事項			2年	C領域	ア				
学年	領域	記号	言語活動		重点化	学習活動	評価規準	留意点 他	時
2年	C領域	イ	導入 (学習への見通し)		作品を通して当時の武士の生き様からものの見方や考え	本単元の学習の流れ(言語活動)や本単元で付けた資質・能力について知る。 教科書・ワーク・ハンドブックを活用することを通して「平家物語」の背景を理解し、作品の世界に興味をもつ。	様々な資料を通して「平家物語」の背景である源平合戦のあらましをつかみ、作品に興味をもっている。 (授業姿勢の観察)	(教)ハンドブックを活用し、源氏と平家は一枚岩でなかったことや貴族社会の終焉における武士の台頭が作品の背景にあることに興味をもたせる。	①
			精査・解釈			冒頭部分の暗唱をめざし、音読練習を行うとともに作品の根底に流れる「無常観」についての理解を深める。	リズム感を意識した音読を行い、作品の根底に流れる「無常観」をつかんでいる。 (音読の様子・ワークシートの記述)	(教)教科書の冒頭部分以外の部分を用意し、「無常観」についての理解を深められるようにする。 (指)暗唱をめざし、繰り返し音読させ、作品のリズム感を意識させる。	②
			目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり、登場人物の言動の意味などについて考えたりして、内容を解釈すること。			「扇の的一」を射さず命を与えた「義経」と一度は辞退するが、命に従う「与一」の心情を考慮することを通して二人の人物像や当時の武士のものの見方や考え方をつかむ。	平氏の行為の意味を捉え、それに対する「与一」と「義経」の心情を考慮し、二人の人物像を明らかにしている。 (ワークシートの記述)	(指)表現や状況に着目し、「与一」や「義経」の心情を考慮することを通して当時の武士のものの見方や考え方をつかみ、二人の人物像をまとめさせる。	③ ④
			「扇の的一」を射た「与一」の腕前に感じ入って舞を舞う平家方の老武者を射倒したことに対する自分の考えを明らかにし、仲間とお互いの考えを交流し、「与一」、「義経」の人物像をつかむ。			「与一」の行為に対して、「あ、射たり」、「情けなし」と分かれる評価に対して自分はどう感じるか根拠を明確にして考えをまとめ、交流している。 (ワークシートの記述・交流の様子)	(指)自分がその場にいたらどう反応をするか、立場を明確にして自分の考えをまとめさせる。 (評)どちらに強く共感するか、根拠を明確にしたワークシートの記述で評価する。	⑤	
			流された弓を命懸けで拾う「義経」の行為の是非を考慮することを通して「扇の的一」でつかんだ「義経」の人物像との違いに気づき、源氏の総大将である「義経」に対して自分の考えをもつ。			「義経」の行為を「肯定・否定」の立場で考え、交流することを通して新たな「義経」の人物像をつかんでいる。 (ワークシートの記述・交流の様子)	(教)「弓流し」の図屏風を見せる。 (指)「義経」の行為の是非を考慮することを通して源氏の総大将としての生き様から新たな「義経」の人物像を捉えさせる。	⑥	
			文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすること。			「扇の的一」でつかんだ「義経」と「弓流し」で新たに気付いた「義経」の人物像を根拠とし、源氏の総大将である「義経」のリーダー像を明確にし、現代社会における理想のリーダー像について自分の考えをまとめる。	作品全体から捉えた「義経」の大将としての価値観を現代生活と比較し、自分の理想のリーダー像を明らかにしている。 (ワークシートの記述・交流の様子)	(指)作品から自分よりも源氏全体の名誉を重んじるとともに自らも先頭に立って源氏の勝利にこだわる「義経」の姿と現代社会を比較し、理想のリーダー像に対する自分の考えを明らかにさせる。	⑦
まとめ (学習の振り返り)			この単元で自身が身に付けた力や古典の学習で感じたことを「振り返り」に記入する。		これまでの学習を振り返り、交流を通して感じたことや考えたことをまとめている。 (自己評価シートの記述)		(指)単元全体の振り返りを行い、当時の武士の生き様から感じたことをまとめさせる。		
関連する[知識及び技能] (1)言葉の特徴や使い方に関する事項 (2)情報の扱い方に関する事項 (3)我が国の言語文化に関する事項			2年	(3)	ア	伝統的な言語文化 作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむこと。	②冒頭部分の音読を通して作品に流れる「無常観」の意味を捉えている。 (ワークシートの記述) ④扇の的一に向かう与一の場面で音読の仕方を工夫することで与一の心情を捉えている。(音読の様子)	(指)作品や人物の心情を意識した音読を行っているかを評価する (教)人物の心情を意識させるために音楽記号を活用したワークシートを工夫する。	② ④
			2年	(3)	イ	現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を学ぶこと。	「扇の的一」・「弓流し」の内容を理解し、「与一」と「義経」の心情や人物像を考慮することを通して、当時の武士のものの見方や考え方をつかんでいる。 (ワークシートの記述)	(評)場面や状況に着目し、内容や人物の心情を考慮することを通して人物や当武士のものの見方や考え方をつかんでいるかをワークシートの記述で評価する。	③ ⑥
学びに向かう力、人間性等に関する評価 (主体的に学習に取り組む態度)						当時の武士の生き様からつかんだ人物像を現代と比較し、理想のリーダー像を考慮し、伝えようとしている。 (ワークシート・交流の様子)	(評)単元全体の学習を通して、古典への関心の高まりを評価する。		

※「留意点 他」の記号…(指)指導に当たっての留意点、(評)評価に対しての留意点、(他)他の学習活動のアイデア、(教)教材・教具の工夫